

1. はじめに

東京電機大学は、2016（平成 28）年度より、安田浩新学長のもと、新ガバナンス体制を構築し、1907（明治 40）年の学園創設以来「技術で社会に貢献する人材の育成」の使命を達成し続けるべく、毎年度の自己点検・評価活動を実施し、その結果を社会に公表している。

学園創立 110 周年となる 2017（平成 29）年度には、我が国が提唱する「超スマート社会」（ソサイエティ 5.0）の概念を支える IoT・IoE 技術の発展を背景に、今後ますます高度化する情報社会の基盤となる情報システム工学、そして、様々なものやシステムのように複合領域の知識と技術を必要とする「ものづくり」を支えるデザイン工学、これらの教育内容を標榜するシステムデザイン工学部（情報システム工学科、デザイン工学科）を新設するとともに、工学部に 3 つの新学科（電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科）を設置した。併せて、未来科学部の入学定員の見直し（建築学科定員増）を図り、社会から求められる人材の育成に注力している。

さて、本学は、2016（平成 28）年度において、（公財）大学基準協会による第 2 期大学認証評価を受審し、その結果 7 年間の適合認定（2017（平成 29）年 4 月 1 日～2024（平成 36）年 3 月 31 日）を取得した。

大学認証評価結果においては、2009（平成 21）年度に受審した第 1 期大学認証評価以降の本学の取り組みは基本的に前向きに評価されたものの、一部検討課題が残った。

この評価結果を真摯に捉え、新ガバナンス体制の PDCA サイクルを速やかに検討・構築し、2017（平成 29）年度以降の各施策の実現に向けて、鋭意進展させていく所存である。

上記の状況を踏まえて、2016（平成 28）年度東京電機大学自己点検・評価報告書については、第 2 期大学認証評価結果及び自己点検・評価活動の実質化に主眼を置いて、2015（平成 27）年度東京電機大学自己点検・評価報告書に基づく「大学認証評価結果における努力課題への対応」「第 39 群大学分科会報告書にて指摘のあった事項」「各部局で掲げている改善すべき事項」の再確認及び改善に焦点を絞り、本報告書を作成した。

なお、大学認証評価制度においては、2018（平成 30）年度より実施される第 3 期認証評価（2018（平成 30）年度～2024（平成 36）年度）に伴い、評価基準・評価項目の見直しが図られることが周知されている。

本学においても、この第 3 期認証評価への対応について、この自己点検・評価活動をいかに関連づけて大学の発展に結び付けていくか、今後検討に着手する次第である。